

カトリック仙台司教区

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局
 支援金振替口座：00170-5-95979
 カリタスジャパン

6月17日に閉会した司教総会で、「東日本大震災からの復興に向けて」という声明が発表されました。そこでは、犠牲者への祈りとともに、日本の教会をあげて長期にわたり、復興に向けて、直接的な支援を開始する旨が宣言されました。被災地はこうした日本の教会の新しい活動に大いに励まされているところです。

また、司教総会では、仙台教区からの4つ目の要請である「全国の教会が被災沿岸部を直接的に支援するプロジェクト」については、三教会管区が責任を持って取り組むと決めて下さいました。これを仙台教区と連携して取り組むために7月12日(月)～13日(火)、仙台において「全国担当者会議・視察」が行われました。

仙台教区支援のための全国会議 開催される

7月11日11時から始まった全国会議は、東日本大震災犠牲者追悼ミサから始まった。

参加者は三教会管区から、遠くは那覇教区から札幌教区まで総勢40名であった。また、男女修道会の役員4人も参加して下さった。司式



した平賀司教は、全国からの支援に対し感謝の言葉を述べ、あらためて被災地の状況を伝え、「新創造計画」を推進したいこと、手がつけられていない被災沿岸部への全国からの支援を要請した。



仙台教区サポートセンターが活動していない地域 被災沿岸地域への支援を開始

仙台教区復興支援担当である菊地司教は、全国から参集した担当者に向け、急遽開催が決まったにもかかわらず、万難を排して参集してくれたことに謝意を述べた。全国の教会が仙台教区を支援するための仕組みを説明した。また、各管区の担当者が直接、顔と顔を合わせ、当地の仙台教区の担当者として直接知り合う機会が必要であり、被災地の現実に直接触れていただくためにも、今回の会議が必要であった経緯を説明した。



既に、大震災発生から4ヶ月が過ぎたが、「フクシマ」では未だ被害が進行しており、救援・復興活動は長期に及ぶとの認識を示した。また、全国レベルで、仙台教区をどのように支援できるのかという点について、試行錯誤は続いているものの、新しいプロジェクトに向けて三管区担当者相互で情報交換を行いながら、被災地での活動を開始したいと述べた。

担当補佐である神田神父(大阪教区)より、管区の地域割りは既に出来ているネットワークを壊す意図がない事等、より具体的な説明が行われた。

震災後の各団体の活動等情報交換

各教区ごとに、参加者が自己紹介を行い、震災後に行った自教区や修道会単位での救援活動を紹介しあった。今後行う管区での被災沿岸部の活動に有機的なネットワークを再構築していく必要性を確認することができた。

仙台教区からは小松事務局長から期待される救援・復興活動について具体例を交えて説明が行われた。



仙台教区サポートセンターから成井神父が4ヶ月の救援活動の経過を報告した。教会は、震災前からそこにいて、震災後もそこにい続ける存在であることを示していきたい。今後、心のケアに寄り添うニーズが高まると予想される。情報を集約する場としてのサポートセンターの役割を痛感しつつ、今後の働きにつなげたいと、今後の救援活動の方針に理解を求めた。

現地視察は三グループ 被災地を巡る弾丸ツアー 参加者現地に佇む

11日16時、会議を終えた宮城県視察グループと福島県視察グループは、小松神父の案内により、塩釜ベースを訪問し、ボランティア活動等を視察し、多賀城市、仙台市沿岸部の津波被害状況を見学した。岩手県視察グループは一路八戸へ移動した。翌日12日(火)、

● 岩手県グループは、八戸市を出発し、岩手県沿岸部を一路南下。岩手県北部久慈教会を訪問し、その後、宮古教会ベースを訪問。大槌町では、ボランティア活動のための拠点のための元ホテルの視察も行った。最後に、釜石ベースを訪れ、スタッフより救援活動の実際について説明を受け、ボランティアやスタッフとの交流をもち犠牲者への祈りを捧げた。



● 宮城県グループは、県北部気仙沼教会を訪問。会津神父の被災経験や3ヶ月間の被災地の状況をお話いただいた後、三日三晩炎上した市内湾岸部を案内してもらった。南三陸町の甚大な被害を視察し、祈りのひとときを持った。南三陸町への支援活動を行っている米川ベースを訪問し、ベース長の大西神学生から活動状況の説明を受けた。石巻市では、海岸近くの被災状況をバスの中から見学し、石巻ベースではベース長の越智さんから活動状況をお聞きした。



● 福島県視察グループは仙台市南部の海岸沿いを南下し、亘理町を経て南相馬市原町教会へ。併設幼稚園は放射線量が高く休園中。広島教区原田神父持参の簡易線量計による線量値は、雨どい付近が8-9μSvであった。福島市桜の聖母学院で被災状況等困難な状況について説明を受けた。郡山市では「郡山ビックパレット避難所」訪問し、ザベリオ学園教諭より、警戒区域の市町村が移転・避難してきていること、避難者が自主的にカフェ等を運営している等の現状を聞き、今後支援ができるとすれば、物資仕分け、仮設住宅支援などの一般ボランティア活動への参加が考えられる事等が分かった。須賀川教会で、周辺の状況について説明を受けた。教会は被害が甚大で既に取り壊し作業が行われ、信徒は郡山教会へ転入している。郡山ザベリオ学園は生徒が減少し、経営が厳しい状況にある事等を聞いた。

